

日本国特許庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

11002 U.S. PRO  
09/781496  
02/12/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて  
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed  
with this Office.

出願年月日  
Date of Application:

2000年 2月14日

出願番号  
Application Number:

特願2000-039753

出願人  
Applicant(s):

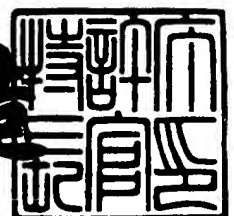
ソニー株式会社

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2000年12月22日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3106088

【書類名】 特許願

【整理番号】 9900920002

【提出日】 平成12年 2月14日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 1/00

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
                                内

    【氏名】 新井 淑之

【特許出願人】

    【識別番号】 000002185

    【氏名又は名称】 ソニー株式会社

    【代表者】 出井 伸之

【代理人】

    【識別番号】 100086841

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 脇 篤夫

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 014650

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

    【包括委任状番号】 9710074

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 情報処理装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 通信可能に接続された端末装置からのリクエスト信号を受信する受信手段と、

上記リクエスト信号に応じて、特定の情報へのアクセスの際に用いるユーザー識別子を生成するユーザー識別子生成手段と、

上記ユーザー識別子の生成元を示すと共に上記特定の情報へのアクセスの際に用いることになる生成元識別子を生成する生成元識別子生成手段と、

生成された上記ユーザー識別子及び上記生成元識別子を、上記端末装置に転送する転送手段と、

を備えたことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】 上記転送手段は、生成された上記ユーザー識別子及び上記生成元識別子を、上記特定の情報を保持する情報処理装置にも転送することを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 3】 通信可能に接続された端末装置から、ユーザー識別子、及び上記ユーザー識別子の生成元を示す生成元識別子を受信する受信手段と、

上記受信手段で受信されたユーザー識別子及び／又は生成元識別子について、特定の情報へのアクセスのための認証を行う認証手段と、

上記認証手段による認証結果に応じて、上記生成元識別子が示す生成元に対して、対価支払いのための処理を行う支払い処理手段と、

を備えたことを特徴とする情報処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えば通信回線を介して各種情報の提供や、情報や物品の販売等を行うことのできるシステムにおける情報処理装置に関するものである。

## 【 0 0 0 2 】

## 【従来の技術】

近年、インターネット等の通信回線を介して接続されるネットワークシステムが広く利用されている。インターネットの場合は、多数の人や団体がホームページを開設し、広く一般に対して、各種の情報の提供を行ったり、あるいは情報や物品の販売を行うことが可能となっている。

また、或るホームページにおいて、他のホームページへのアドレスリンクを形成することで、一般ユーザーは或るホームページに関連する他のホームページへ容易にアクセスすることができるようにされている。

## 【 0 0 0 3 】

## 【発明が解決しようとする課題】

ところで、例えば営業上の一手段としてホームページを開設し、ホームページ上で物品の販売を行う場合などは、他のホームページ上で紹介等をしてもらう場合がある。

例えば個人又は会社による物品販売のホームページ「A」を、他のホームページ「B」上で紹介、宣伝してもらい、さらにリンクを形成してもらうことがある。この場合、ホームページ「B」にアクセスした一般ユーザーは、そこでホームページ「A」の存在を知り、ホームページ「A」にアクセスしてインターネットショッピングを楽しむことなどができる。

## 【 0 0 0 4 】

このように或るホームページ「A」について他のホームページ「B」で紹介してもらう場合は、ホームページ「A」の開設者がホームページ「B」の開設者に対して宣伝・広告料又は紹介料などとして対価を支払うことが行われている。

そして実際上は、例えば月極の一定の費用、あるいはホームページ上での紹介部分の面積などによって対価の額が決定されている。

## 【 0 0 0 5 】

しかしながら、もちろん宣伝・紹介による、ホームページ「A」側の経済的な効果は正確に算定することができず、従ってホームページ「B」側等の紹介者・宣伝者に対する対価の額は必ずしも適切であるとはいえないことが多い。

## 【 0 0 0 6 】

例えば、実際には紹介件数が殆んどない場合は、ホームページ「A」側では対価の支払いがとても不利なものと考えることになる。逆に、紹介件数が非常に多数の場合は、ホームページ「B」側は、もらえる対価の額に不満を覚えることもある。

また、ホームページ「B」以外に「C」においても紹介・宣伝をしていたところ、実際には殆どの人がホームページ「C」を介してホームページ「A」にアクセスしていたような場合、ホームページ「B」の開設者とホームページ「C」の開設者に同じ額の宣伝・紹介料を支払うことは適切ではない。

## 【 0 0 0 7 】

## 【課題を解決するための手段】

本発明はこのような状況に鑑みて、例えばホームページ間での紹介が行われる際などに、両者間での適切な対価支払いが実現できるようなシステムの提供を目的とする。

## 【 0 0 0 8 】

このために本発明の情報処理装置、例えば他のホームページの紹介を行っているホームページ側としては、通信可能に接続された端末装置からのリクエスト信号を受信する受信手段と、上記リクエスト信号に応じて、特定の情報へのアクセスの際に用いるユーザー識別子を生成するユーザー識別子生成手段と、上記ユーザー識別子の生成元を示すと共に上記特定の情報へのアクセスの際に用いることになる生成元識別子を生成する生成元識別子生成手段と、生成された上記ユーザー識別子及び上記生成元識別子を、上記端末装置に転送する転送手段と、を備えるようにする。

すなわち、一般ユーザーの端末装置に対して、上記特定の情報として例えば他のホームページを紹介するときに、そのユーザーにユーザー識別子を与えると共に、紹介元としての当該情報処理装置を示す生成元識別子を与える。これによって、端末装置のユーザーが、上記特定の情報をアクセスする際に、これらユーザー識別子、生成元識別子を使用できるようにする。

なお、上記転送手段は、生成された上記ユーザー識別子及び上記生成元識別子

を、上記特定の情報を保持する情報処理装置にも転送するようにしてもよい。

【0009】

また本発明の情報処理装置、例えば他のホームページによって紹介、宣伝等を行ってもらった側では、通信可能に接続された端末装置から、ユーザー識別子、及び上記ユーザー識別子の生成元を示す生成元識別子を受信する受信手段と、上記受信手段で受信されたユーザー識別子及び／又は生成元識別子について、特定の情報へのアクセスのための認証を行う認証手段と、上記認証手段による認証結果に応じて、上記生成元識別子が示す生成元に対して、対価支払いのための処理を行う支払い処理手段とを備えるようにする。

即ち、特定の情報に対するアクセスの際に、ユーザー識別子、生成元識別子を用いて認証を行い、さらに上記生成元識別子により生成元、例えば紹介元を正確に識別して、紹介料、宣伝料等の対価支払いのための処理を行うことで、適切な対価支払いが実現できるようにする。

【0010】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について説明する。この実施の形態ではインターネットホームページとして、紹介先、紹介元が存在し、紹介先から紹介元へ紹介・宣伝料の支払いを行うような状況にある場合を想定する。本発明の情報処理装置は、紹介元・紹介先のホームページを構成するプログラムにより実現されるものとする。

【0011】

図1にシステム構成例を示す。これは、インターネットにより接続される多数の端末やホームページの一部として構成されるものであり、ユーザー端末1、紹介元ホームページ2、紹介先ホームページ3を示している。なお、もちろんユーザー端末1は世界中の多数の端末の1つの例示しているのみであり、ホームページ2、3も同様である。また紹介元、紹介先というのは固定的なものではなく、例えば図1に示す紹介元ホームページ2が、図示しない他のホームページによって紹介される紹介先となることもある。

## 【0012】

この図1においては、紹介先ホームページ3は、紹介元ホームページ2において紹介、宣伝等が行われているものとし、また紹介元ホームページ2から紹介先ホームページ3にはリンクが形成されている。従って、例えばユーザー端末1が紹介元ホームページ2にアクセスした場合、その紹介元ホームページ2で紹介先ホームページ3の存在や内容を知ることができ、またリンクによって容易に紹介先ホームページ3にアクセスすることができる。なお、もちろんユーザー端末1が、紹介元ホームページ2を通過することなく、直接紹介先ホームページ3にアクセスすることも可能である。

また紹介先ホームページ3の開設者は、紹介元ホームページ2の開設者に対して、紹介料を支払うような契約が結ばれているとする。

## 【0013】

このようなシステムにおいては、ユーザー端末1が紹介元ホームページ2にアクセスした後に、そこに提示されている紹介や宣伝をみて、紹介先ホームページ3にアクセスしたいと思った場合は、紹介元ホームページ2にリクエストを發し、ユーザーパスワードと紹介パスワードを發行してもらう。ユーザーパスワードとは、ユーザー端末1に固有に与えられる識別子である。

また紹介パスワードは、紹介元ホームページ2を示す識別子であり、これはユーザーパスワードの生成元を示すものでもある。

さらにいえば、紹介パスワードは、上述した紹介料支払いの契約などに基づいて、紹介先ホームページ3が紹介元ホームページ2に対して付与した識別子であり、紹介元ホームページ2と紹介先ホームページ3の関係の上において固有で、さらにその関係上で、紹介元ホームページ2を示す識別子となる。

## 【0014】

ユーザーパスワードと紹介パスワードの發行を受けたユーザー端末1は、紹介先ホームページ3への入場の際には、そのユーザーパスワードと紹介パスワードを用いることができる。

なお、このときユーザーパスワードと紹介パスワードを用いなければ、ユーザー端末1が、紹介先ホームページ3に入場することができないようにしてもよい

が、本例では、一例として、ユーザー端末1はユーザーパスワードと紹介パスワードを用いない場合でも、紹介先ホームページ3に入場できるものとして説明していく。

#### 【0015】

図2に、紹介元ホームページ2側の機能ブロックを示す。なお、ここで示す機能ブロックは、他のホームページに対する紹介元として機能するための部位のみを示している。また各機能ブロックはホームページを管理するソフトウェアで構成されればよい。

図2に示すように、機能ブロックとして受信機能21、ユーザー登録機能22、ユーザーパスワード生成機能23、紹介パスワード記憶機能24、送信データ生成機能25、送信機能26が形成される。

#### 【0016】

受信機能21は、ユーザー端末1からの上記したリクエストを受信する機能である。また、本例ではユーザーパスワードの発行の際には、ユーザー登録が必要であるとし、従って受信機能21は、そのユーザー登録のための登録データをユーザー端末1から受信する機能も有するものとする。

#### 【0017】

この紹介元ホームページ2では、その中に、例えば図5に示すようなユーザー登録画面が用意されているとしており、ユーザー端末1がリクエストを発する際は、この図5の画面上で個人情報を入力して送信するものとしている。

例えばユーザーネーム、名前、ふりがな、年齢、住所等、所要の個人情報を入力する。

ユーザー端末1の使用者が、このような登録画面において入力を終え、入力された登録データと共にリクエストを発した場合、受信機能21によってこれらの情報が受信され、ユーザー登録機能22に受け渡される。

ユーザー登録機能22は、登録データを記憶してユーザー登録を行う。そして登録に応じて、ユーザーパスワード生成機能23により、登録したユーザーに固有のユーザーパスワードを生成する。生成されたユーザーパスワードはユーザー登録機能22により、上記登録データに対応して記憶される。



また、生成されたユーザーパスワードは送信データとして、送信データ生成機能 2 5 に受け渡される。

#### 【 0 0 1 8 】

紹介パスワード記憶機能 2 4 は、紹介先ホームページ 3 から、この紹介元ホームページ 2 に割り当てられた紹介パスワードを記憶している。

記憶されている紹介パスワードは、上記のように生成されたユーザーパスワードとともに、送信データ生成機能 2 5 に受け渡される。

送信データ生成機能 2 5 は、紹介パスワードとユーザーパスワードを送信データとして生成し、送信機能 2 6 に転送する。そして送信機能 2 6 は、ユーザー端末 1 に対して、送信データ、即ち紹介パスワードとユーザーパスワードを送信することになる。

これにより、ユーザー端末 1 の使用者は、例えば図 6 のような画面を見ることができ、自分に割り当てられたユーザーパスワードと、紹介パスワードを知ることになる。

#### 【 0 0 1 9 】

図 3 は紹介先ホームページ 3 側の機能ブロックを示す。なお、ここで示す機能ブロックは、他のホームページからの紹介先として機能するための部位のみを示している。また各機能ブロックはホームページを管理するソフトウェアで構成されればよい。

図 3 に示すように、機能ブロックとして受信機能 3 1、入力チェック機能 3 2、ユーザーパスワード登録機能 3 3、紹介元処理機能 3 4、支払い処理機能 3 5 が形成される。

#### 【 0 0 2 0 】

受信機能 3 1 は、ユーザー端末 1 が当該紹介先ホームページにアクセスした際に送信してくるユーザーパスワードと紹介パスワードを受信する機能である。

入力チェック機能 3 2 は、ユーザー端末 1 がこのホームページに入場する際に、送信されてきたユーザーパスワードと紹介パスワードを確認する機能である。

ユーザーパスワード登録機能 3 3 は、当該紹介先ホームページに入場したユーザーのユーザーパスワードを記憶しておく機能である。この登録データは、ある

ユーザーが初めて入場するのか、2回目以降の入場であるのか判断する情報となる。

紹介元処理機能34は、他のホームページ等に発行した紹介元パスワードの記憶や、ユーザー端末1から送信されてきた紹介元パスワードに応じて、紹介実績の算定等の処理を行う機能である。

支払い処理機能35は、紹介者（紹介元ホームページの開設者）に対して、上記紹介元処理機能34で算定された紹介実績に応じて、紹介料の支払い又は紹介料の算定を行う機能である。ここでは、例えば個々の紹介者に対して、紹介実績に応じた紹介料を算出するのみとしてもよいし、その紹介料の支払いのための経理処理、送金処理、通知処理等の機能までも含めてもよい。

#### 【0021】

この図3のような機能ブロックを有する紹介先ホームページ3で実行される処理例を図4で説明する。これはユーザー端末1が紹介先ホームページ3に入場しようとする際の処理となる。

ユーザー端末1からのアクセスがあった場合、紹介先ホームページ3ではまず図4のステップF101として、ユーザーパスワード及び紹介パスワードの確認処理を行う。

例えばアクセスがあった場合には、ホームページ入場前の画面として図7のような画面を提示し、ユーザー端末1のユーザーに、ユーザーパスワード及び紹介パスワードの入力/送信を促す。

#### 【0022】

図7のような画面を見たユーザーは、上述のように紹介元ホームページ2からユーザーパスワード及び紹介パスワードの発行を受けていれば、図7の画面上でそれらを入力し、紹介先ホームページ3に送信できることになる。

#### 【0023】

なお、ここでユーザー端末側から、ユーザーパスワードと紹介パスワードを適切に入力できる場合とは、そのユーザー端末1が過去に紹介元ホームページ2から、ユーザーパスワードと紹介パスワードの発行を受けた場合のみである。つまり紹介があった場合のみである。

本発明としては、このようにして適正に紹介を受けた場合のみ、この紹介先ホームページ3に入場できるようにする処理例も考えられるが、ここでは紹介がなくても入場できる処理例を説明していく。

【0024】

紹介を受けていないユーザーの場合は、図7の画面に対して、画面上の案内に応じて文字を入力する。例えばユーザーパスワードとして仮に「user name」と入力し、また紹介パスワードとして仮に「password」と入力する。

【0025】

ステップF101では、このようにして入力されたユーザーパスワードと紹介パスワードの確認を行い、ステップF102では、今回のユーザーが、当該紹介先ホームページ3に初めて入場するのであるか否かを判断する。

ここでは例えば、ユーザーパスワードが「user name」とされていた場合や、あるいは入力されたユーザーパスワードが、ユーザーパスワード登録機能33によって登録されていないものであった場合を、初めての入場であると判断する。

初めての入場である場合であって、かつ「user name」以外の（さらにはユーザーパスワードとしての規定に合致しないもの以外）の何らかのユーザーパスワードが入力された場合は、ステップF103で、ユーザーパスワード登録機能33により、そのユーザーパスワードを新規入場者として登録する。

【0026】

なお従って、ユーザーが何らかのユーザーパスワードを入力した場合で、上記ステップF102での初めての入場であるか否かの判断は、入力されたユーザーパスワードについてユーザーパスワード登録機能33における登録の有無を確認すればよいことになる。

また、入力されたユーザーパスワードが登録されているものであった場合、つまり2回目以降の入場で合った場合は、ステップF102から直接ステップF109、即ちホームページ内容に進むことになる。

【0027】

初めての入場の場合であって、ステップF103でのユーザーパスワード登録を行ったら、続いてステップF104で、紹介の有無を判断する。即ち紹介パス

ワードが入力されているか否かを確認する。

紹介パスワードが入力されていない場合、つまり「password」と仮のパスワードが入力された場合は、紹介者なしとして、ステップF104から直接ステップF109、即ちホームページ内容に進むことになる。

#### 【0028】

紹介パスワードが入力されていた場合は、ステップF105で、その入力された紹介パスワードの確認を行う。つまり紹介元処理機能において登録されている紹介パスワードであるか否かを確認する。これは当該紹介先ホームページ3が、他の紹介元ホームページ2に割り当てた紹介パスワードであるか否かを確認する処理である。

もし、登録してある紹介パスワードに該当しなければ、ステップF106で、紹介者が該当しない旨をユーザーに提示し、ステップF101に戻る。つまりユーザーに入力し直しを求める。

なお、以上のステップF101、F102、F104、F105、F106は入力チェック機能32による処理となる。

#### 【0029】

入力された紹介パスワードが登録されているものであったら、ステップF107に進み、ユーザーに対して紹介者を提示する。例えば図8のような画面を表示して、ある紹介元ホームページ2からの紹介（リンク）により当該ホームページ3にアクセスしてきたことの確認表示を行う。

そしてステップF108では、紹介元処理機能34において、その紹介者、つまりこの紹介先ホームページ3との間で紹介料支払いの契約を行っている紹介元ホームページ2の開設者についての紹介ポイントの値を追加する処理を行う。

なお紹介ポイントとは、例えば紹介元処理機能34において、紹介パスワードと対応して登録されているポイント値であり、紹介実績を示す値となる。

以上の処理をおえたら、ステップF109としてホームページ内容に進む。

#### 【0030】

ユーザー端末1から紹介先ホームページ3に入場する際に、以上のような処理が行われることで、紹介先ホームページ3の開設者から紹介元ホームページ2の

開設者に対しては適切な紹介料の支払いが実行できることになる。

即ち上記処理によれば、あるユーザー端末が、紹介者（紹介元ホームページ2）を介して初めて紹介先ホームページに入場する場合のみに、その紹介者の紹介ポイントの値が追加されるものとなる。紹介者からのリンクであっても2回目以降の入場の場合は、紹介ポイントの値は追加されない。すでにそのユーザー端末1のユーザーは、過去にその紹介先ホームページ3を紹介されており、今回の入場は「紹介」によるものには当たらないからである。またユーザー端末1から紹介者を介さないでアクセスした場合も、当然ながら紹介ポイントは追加されない。

つまり真に紹介の効果があつた場合のみ、その紹介者に対して紹介ポイントが追加される処理となっている。

従って、紹介先ホームページ3では、支払い処理機能35により、例えば月に1度など、各紹介者についての紹介ポイントの値を確認し、その紹介ポイント値に応じた金額を算出できる。つまり紹介実績に応じた適切な支払金額がわかることになる。そして事務手続きとして、その金額の紹介料を紹介者に支払うようにすればよい。

このようなシステムによれば、紹介元、紹介先の双方にとって不都合のない紹介契約も可能となる。

もちろん、複数の紹介者が存在する場合でも、各紹介者についての紹介ポイントが、その紹介実績に応じて加算されていくため、各紹介者にはそれぞれの紹介実績に応じた紹介料の支払いが可能となる。

#### 【0031】

続いて図9～図11で、実施の形態としての変形例を説明する。

図9はシステム構成例であり、上記図1と同様にユーザー端末1、紹介元ホームページ2、紹介先ホームページ3を示している。基本的には図1の例と同様であるが、この場合は、紹介元ホームページ2では、ユーザー端末1に対してユーザーパスワード及び紹介パスワードを発行する際に、そのユーザーパスワード及び紹介パスワードを紹介先ホームページ3にも送信するようにしたものである。

## 【0032】

この例において、紹介元ホームページ2の機能ブロックは図2と同様であるため図示及び説明を省略する。ただし図2に示した送信機能26は、送信データとしてのユーザーパスワード及び紹介パスワードを、ユーザー端末1と紹介先ホームページ3の両方に送信することになる。

## 【0033】

紹介先ホームページ3の機能ブロック構成は図10のようになる。図3と同一部分は同一符号を付している。図3と異なる点は、ユーザーパスワード登録機能33がなく、対応登録機能36が設けられている点である。

本例では上記のように、紹介元ホームページ2がユーザー端末1に対してユーザーパスワードと紹介パスワードを送信する際に、同時にこの紹介先ホームページ3にもユーザーパスワードと紹介パスワードを送信してくるが、この対応登録機能36は、この時点で送信されてきたユーザーパスワードと紹介パスワードを図示するように対にして登録する処理を行う。

登録された情報は、ユーザー端末1が紹介先ホームページ3にアクセスした際の入力チェック機能32の処理で用いられる。

## 【0034】

このようなシステムにおいての、ユーザー端末1が紹介先ホームページ3に入場する際に、紹介先ホームページ3の処理は図11のようになる。なお、上記図4と同一の処理については同一のステップ番号を付し、説明を省略する。

## 【0035】

この場合は、ステップF102で初めての入場であると判断された場合は、ステップF110で紹介パスワードの入力があったか否かを確認する。つまりステップF101の時点でユーザー端末1のユーザーが紹介パスワードを入力したか否かの確認である。

そしてもし入力していなかった場合は、ステップF111において、対応登録機能36での登録データを確認し、ユーザーパスワードに対応する紹介パスワードを判別する。

以降の処理は、図4と同様である。

## 【0036】

即ちこの処理例では、ユーザー端末1のユーザーが紹介パスワードを入力しなくても、正しい紹介元を判別できるようにしているものである。換言すれば、ユーザー端末1のユーザーにとっては、紹介パスワードを入力する手間を省くことができる。

このため、ユーザー端末1のユーザーが紹介パスワードを忘れたり、面倒に思っ  
て入力を怠ったとしても、紹介先ホームページ3では正しく紹介元ホームページ2を判別でき、ステップF108で適正に紹介ポイントの追加を行うことができる。

そして紹介先ホームページ3では、紹介元処理機能34、支払い処理機能35により、各紹介者に対して適切な金額の紹介料支払いを行うことができる。

## 【0037】

なお、この図11の処理の変形例として、ステップF101でユーザーパスワードが入力された時点で、対応登録機能36の登録データを確認し、例えば図7のような画面上で自動的に紹介パスワードを表示させてもよい。このようにすればユーザーに紹介パスワードの入力が不要であることを提示できることにもなる。

## 【0038】

以上、実施の形態としての構成及び処理例を説明してきたが、これらはさらに多様な変形例が考えられる。

## 【0039】

まず、上記各例の場合は、ユーザーパスワードや紹介パスワードがなくてもホームページに入場できるものとしたが、これらのパスワードを入力することが、ホームページ入場の必須要件としてもよい。

また、ユーザーパスワードや紹介パスワードがなくてもホームページ3に入場できるが、パスワードなしでホームページに入場した場合は、ホームページ内での閲覧可能ページなどを制限することなども考えられる。

このような入場制限、閲覧制限を行うことを考えると、ユーザーパスワードや紹介パスワードは、紹介料の支払い等の目的のためではなく、例えば会員制のホ

ームページのような形態において入場制限、閲覧制限を行うことを主たる目的として、本発明を適用できることも意味する。

【0040】

また上記各例では、紹介による1回目の入場があった場合に、紹介者についての紹介ポイントを追加するようにしたが、2回目以降の入場の際にも、紹介ポイントを追加していくようにしてもよい。もちろん、1回目と2回目以降で、追加するポイント値が異なるようにしてもよい。

さらには、紹介先ホームページ3が、物品の販売等を行うホームページであった場合などは、入場したユーザーが物品の購入を行った場合に、紹介ポイントを加算することも考えられる。

このような処理を行うことで、紹介者と紹介先の関係、紹介先ホームページ3の内容、紹介元ホームページ2の内容などの実際の状況に応じてフレキシブルに対応できるシステムとなる。

【0041】

また、上記各例では紹介元ホームページ2と紹介先ホームページ3を個別に示したが、1つのホームページが、他のホームページの紹介元となり、さらに他のホームページからの紹介先となることもある。

そのようなホームページでは、図2の機能と図3（又は図10）の機能の両方を兼ね備えればよい。

【0042】

またユーザーは、図4、図10の処理により紹介先ホームページ3に入場できるが、そのホームページ内で、紹介パスワードの付与を受けることができるようにしてもよい。

即ちあるユーザーが、紹介先ホームページ3の内容を気に入って、自分でも他の人を紹介したいと思ったような場合、その紹介先ホームページ3内で用意されている登録画面においてユーザー自身を登録し、それに対して紹介パスワードを発行してもらうようにする。

そして、そのユーザーは、自分が開設しているホームページを、上記の紹介元ホームページ2と同様に機能させることができる。



## 【0043】

また上記各例の紹介元ホームページ2としては、ユーザーが登録を行うことに応じて、ユーザーに対してユーザーパスワードや紹介パスワードを与えるようにしたが、登録をパスワード発行の要件としなくてもよい。

場合によっては、紹介元ホームページ2上で紹介パスワードを提示し、アクセスしたユーザーのだれもが知り得るようにしてもよい。

さらにユーザーパスワードについては、紹介先ホームページ3側で、アクセスしてきた個々のユーザーに対して発行するものとし、紹介元ホームページ2では発行しないようにしてもよい。例えば紹介先ホームページ3でユーザーパスワードを発行する際には、紹介パスワードが必要であるとするすることで、紹介パスワードとユーザーパスワードの対応がとれるものとなり、上述した紹介料支払い等の処理を適切に行うことができるものとなる。

また、ユーザーパスワードはユーザーによる自己登録式のものとしてもよい。

## 【0044】

またあるユーザーが紹介パスワードを用いて紹介先ホームページ3に入場した場合は、そのユーザーが紹介者をリーダーとするグループの一員として登録され、グループとしての新規参加者の勧誘や説明会を行うなど行動することで、その成果に応じてグループ内の個人にボーナスポイントが追加され、利益として還元されるようにするなど、紹介パスワードを用いた処理は多様に考えられる。

## 【0045】

## 【発明の効果】

以上の説明から理解されるように、本発明によれば、紹介元の情報処理装置ではユーザーの端末装置に対してユーザー識別子と生成元識別子を発行し、紹介先の情報処理装置では、ユーザーの端末装置からの特定の情報に対するアクセスの際に、ユーザー識別子、生成元識別子を用いて認証を行い、さらに上記生成元識別子により生成元、例えば紹介元を正確に識別して、紹介料、宣伝料等の対価支払いのための処理を行うようにしている。

従って、紹介先の情報処理装置では、紹介元を正確に識別して、紹介料、宣伝料等の対価の適切な支払いを行うことができるため、紹介元、紹介先双方にとっ

て好適なシステムを実現できるという効果がある。

また、紹介元となる情報処理装置では、ユーザーの端末装置に対してユーザー識別子及び生成元識別子を転送する際に、それを特定の情報を保持する情報処理装置、つまり紹介先にも転送することで、紹介先の情報処理装置では、ユーザー識別子と生成元識別子を正確に把握することができ、これによっても適切な料金支払いが促進される。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施の形態により構築されるシステム構成のブロック図である。

【図 2】

実施の形態の紹介元ホームページ側の機能ブロックの説明図である。

【図 3】

実施の形態の紹介先ホームページ側の機能ブロックの説明図である。

【図 4】

実施の形態の紹介先ホームページ側の処理のフローチャートである。

【図 5】

実施の形態のユーザー登録画面の説明図である。

【図 6】

実施の形態のユーザーパスワード及び紹介用パスワード発行画面の説明図である。

【図 7】

実施の形態のホームページ入場画面の説明図である。

【図 8】

実施の形態の紹介者確認画面の説明図である。

【図 9】

本発明の実施の形態により構築されるシステム構成のブロック図である。

【図 1 0】

実施の形態の紹介先ホームページ側の機能ブロックの説明図である。

【図 11】

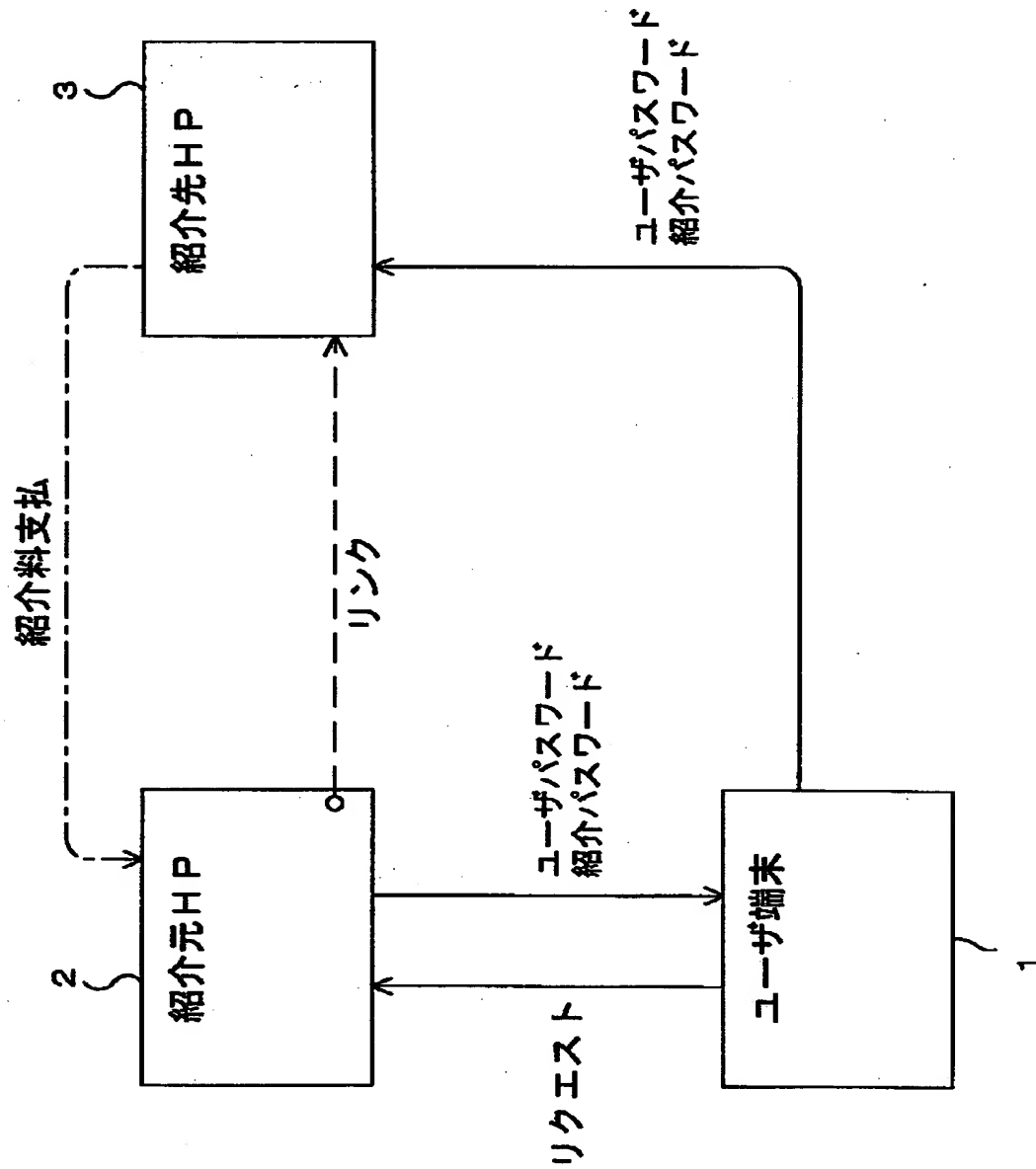
実施の形態の紹介先ホームページ側の処理のフローチャートである。

【符号の説明】

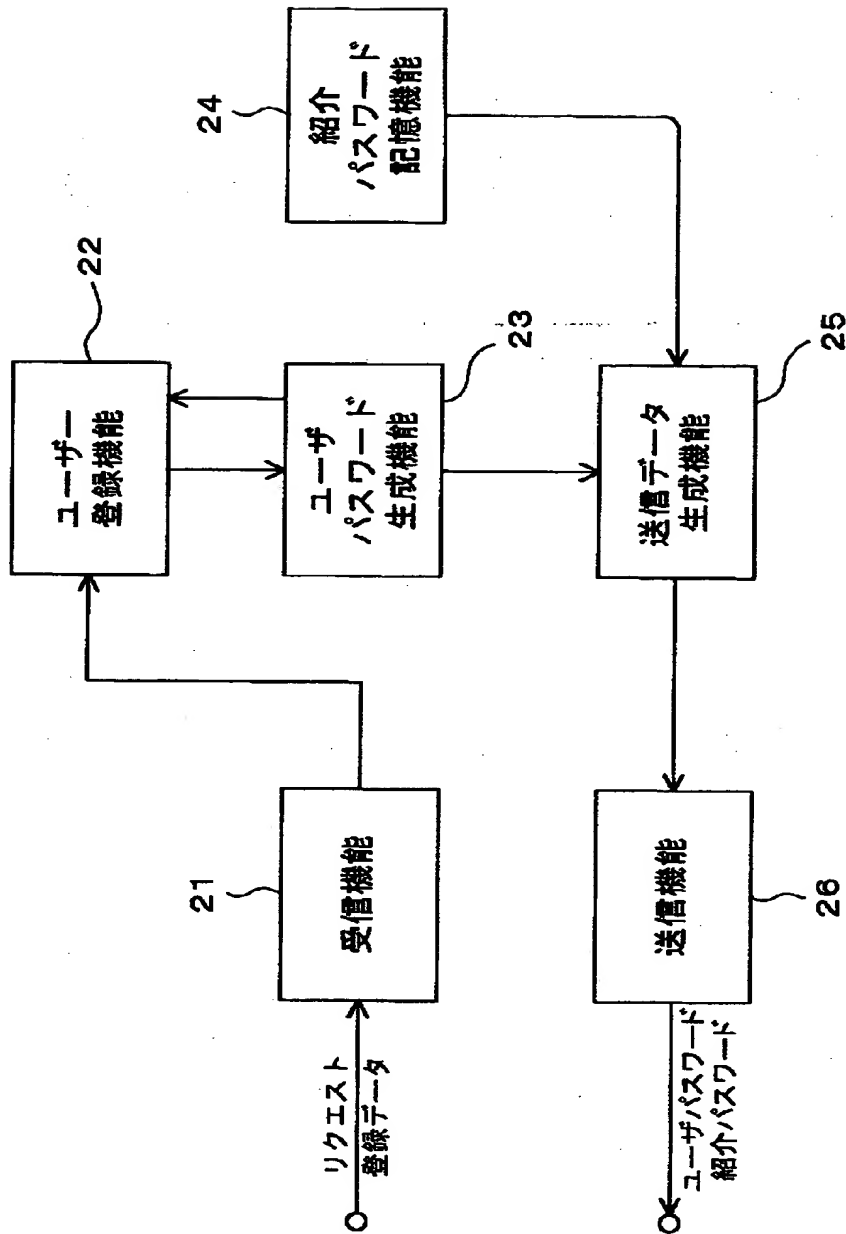
- 1 ユーザー端末、2 紹介元ホームページ、3 紹介先ホームページ、21 受信機能、22 ユーザー登録機能、23 ユーザーパスワード生成機能、24 紹介パスワード記憶機能、25 送信データ生成機能、26 送信機能、31 受信機能、32 入力チェック機能、33 ユーザーパスワード登録機能、34 紹介元処理機能、35 支払い処理機能、36 対応登録機能

【書類名】 図面

【図 1】

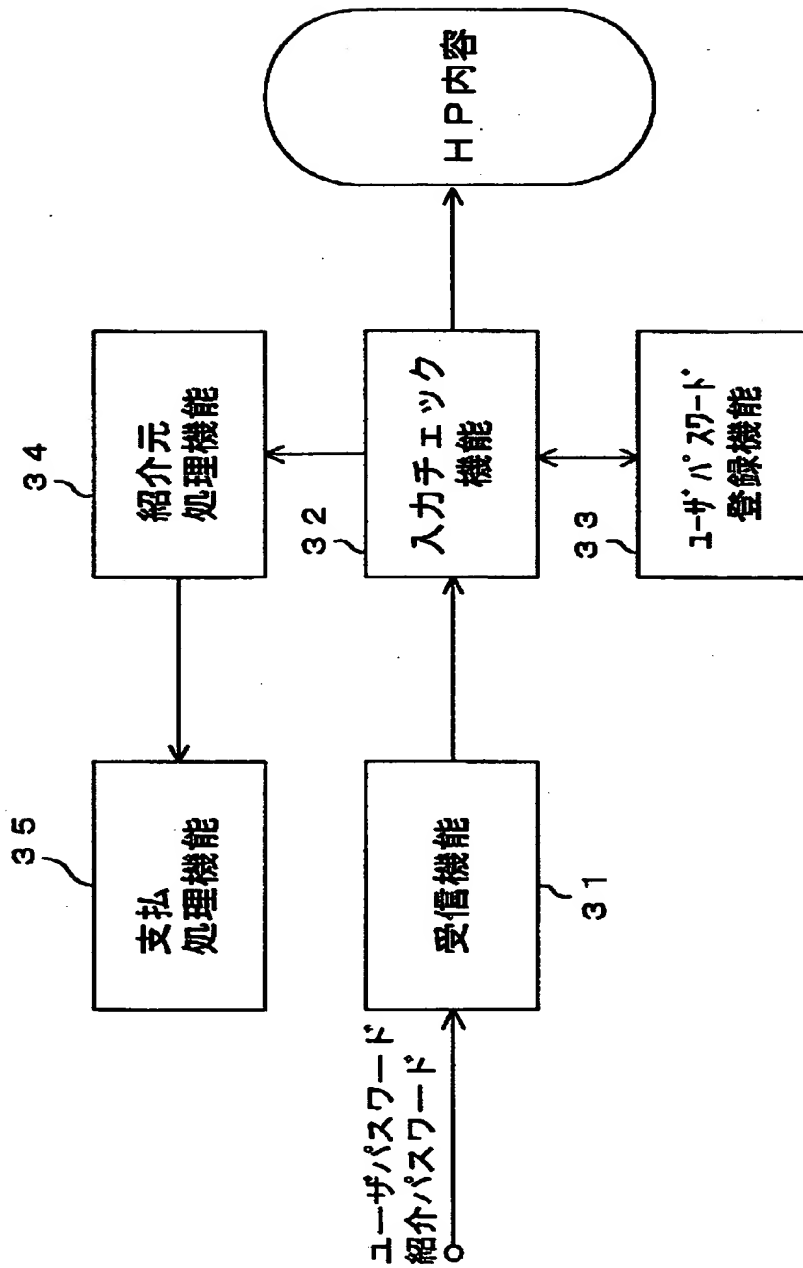


【図2】



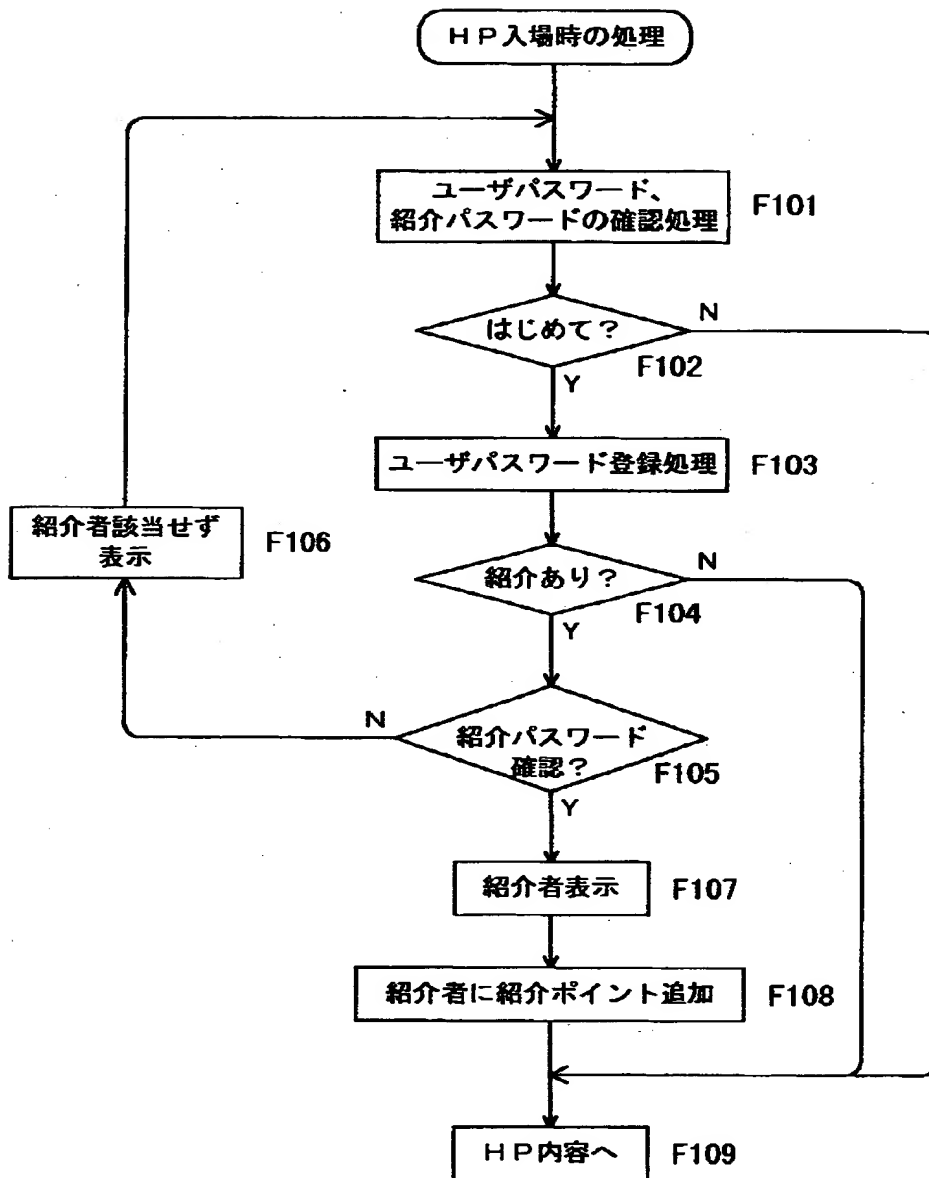
紹介元ホームページ側の機能ブロック

【図3】



紹介先ホームページ側の機能ブロック

【図4】



【図5】

新規ユーザー登録

user name : OOOO

名前(漢字) : △△△△

名前(かな) : さんかくさんかくさんかく

年齢 : ××歳

住所 : ■■■県▲▲市●●町

【図6】

user name : OOOO  
さんのpasswordは  
1 A 2 B 3 C 4 D です。

また、紹介passwordは  
5 E 6 F 7 G 8 H です。

忘れないように紙に残しておきましょう。



【図7】

Welcome to My Home Page!!

ユーザパスワード:

初めての方は、「user\_name」と入れて下さい。

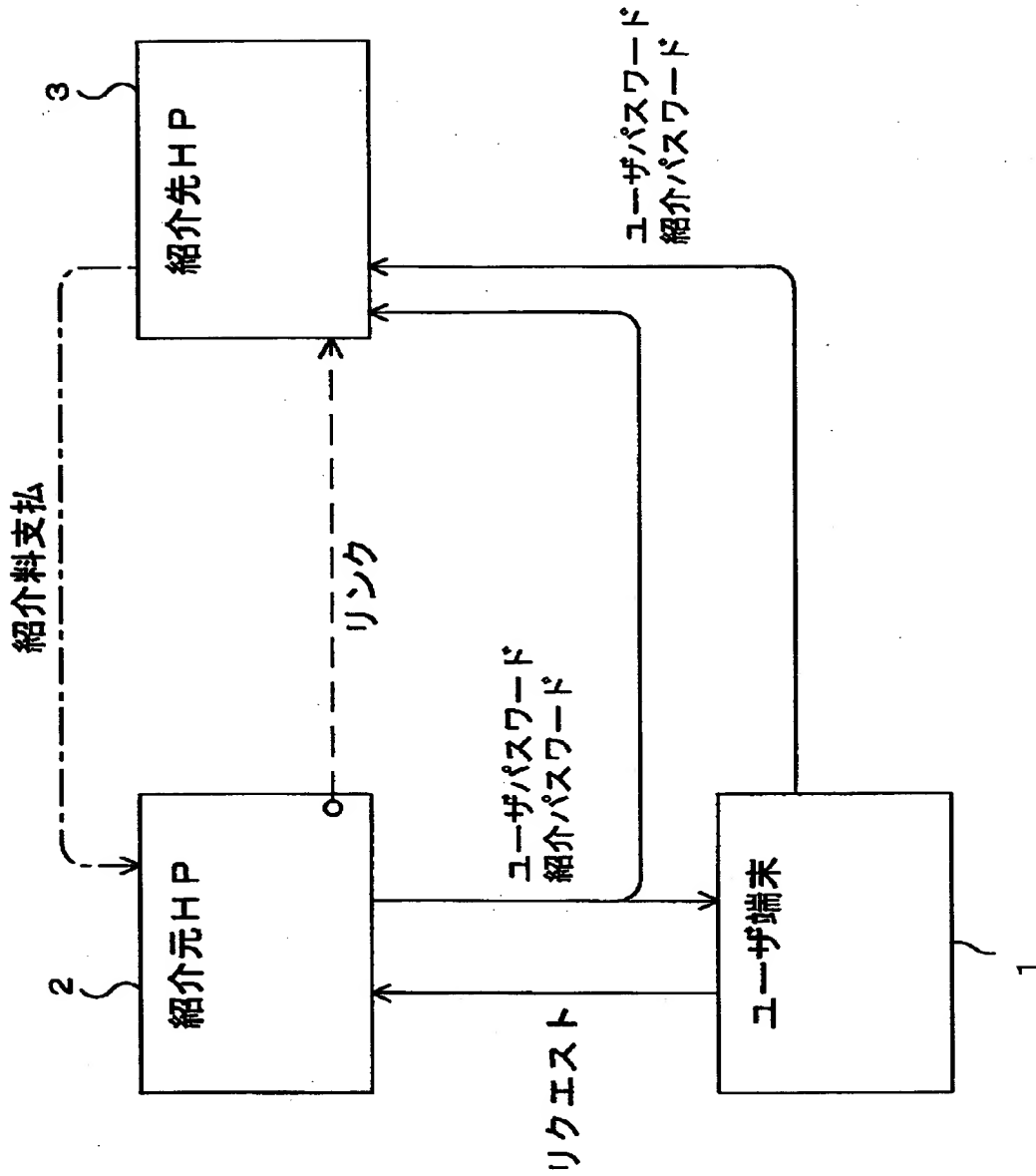
ユーザパスワード:

紹介の場合は、紹介パスワードを入れて下さい。  
そうでない方は、「password」と入れて下さい。

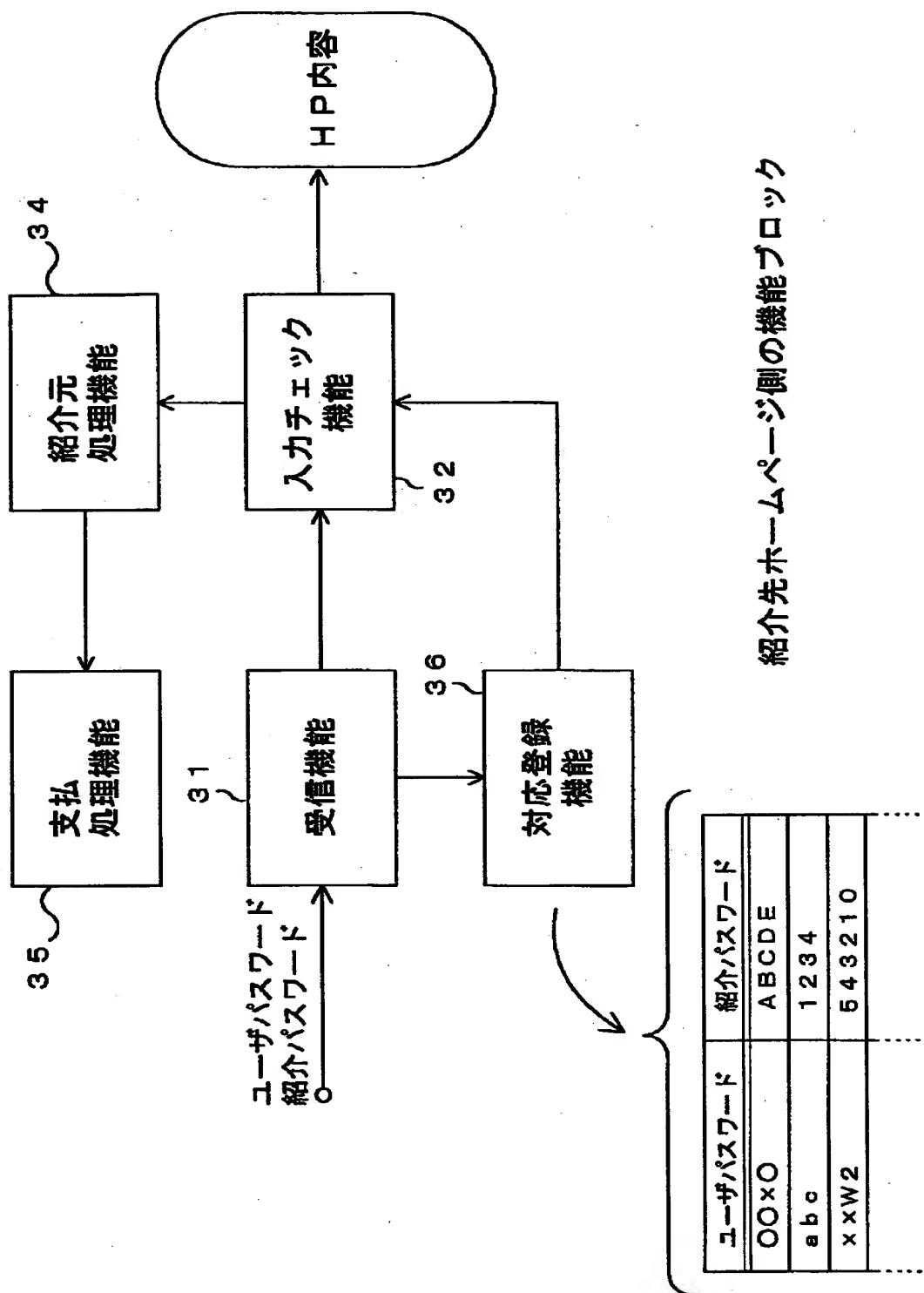
【図8】

「〇〇さん」からの紹介（リンク）  
ですね。  
ありがとうございます。  
ごゆっくりとお楽しみ下さいませ。

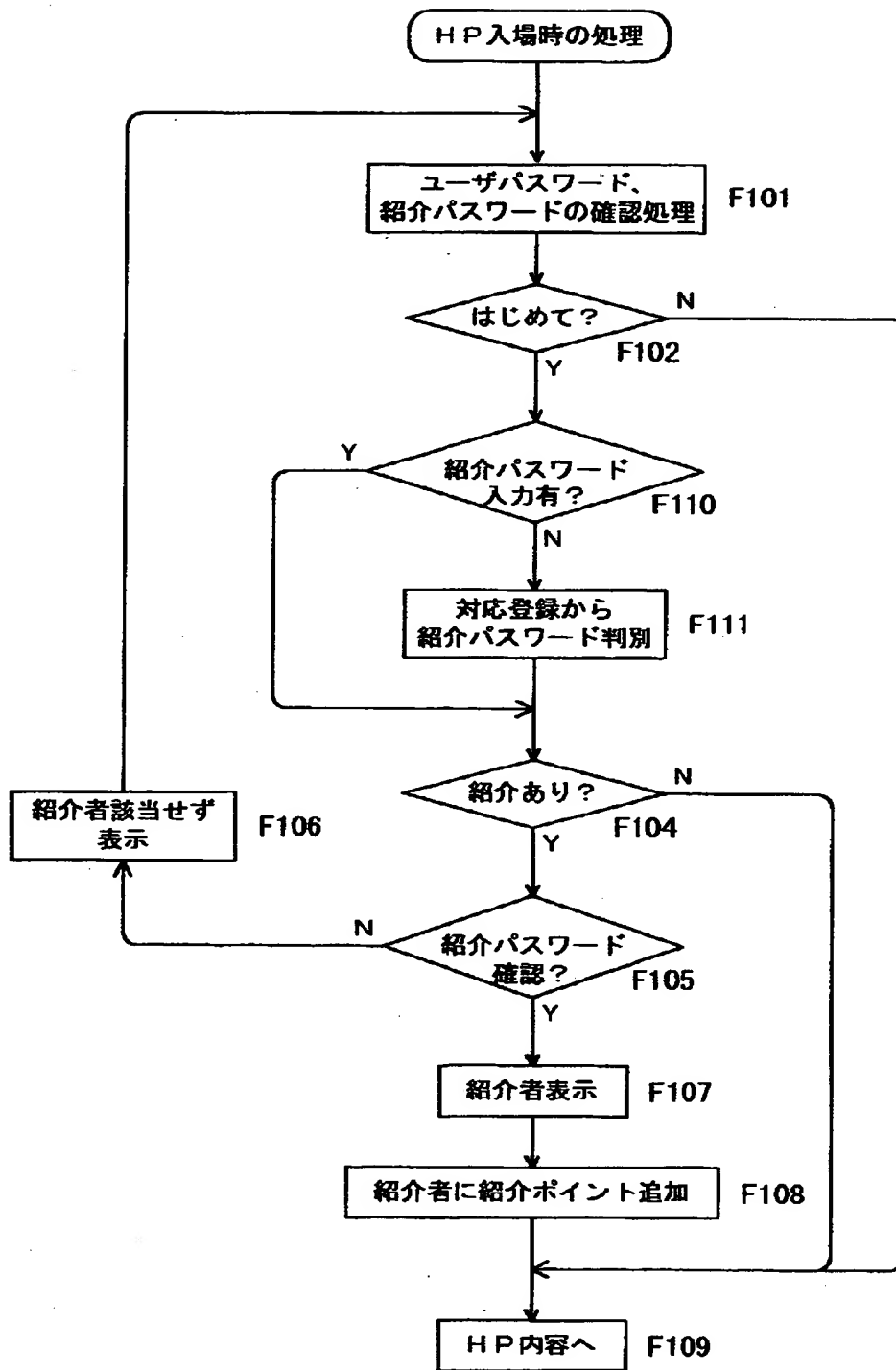
【図9】



【図 10】



【図 11】



【書類名】            要約書

【要約】

【課題】    紹介料、宣伝料の適切な支払いが可能なシステムの提供。

【解決手段】    紹介元の情報処理装置ではユーザーの端末装置に対してユーザー識別子（ユーザーパスワード）と生成元識別子（紹介パスワード）を発行する。紹介先の情報処理装置では、ユーザーの端末装置からの特定の情報に対するアクセスの際に、ユーザー識別子、生成元識別子を用いて認証を行い、さらに上記生成元識別子により生成元、例えば紹介元を正確に識別して、紹介料、宣伝料等の対価支払いのための処理を行うようにする。

【選択図】            図 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002185]

1. 変更年月日 1990年 8月30日  
[変更理由] 新規登録  
住 所 東京都品川区北品川6丁目7番35号  
氏 名 ソニー株式会社